

---

# 魔道士とチップ

槍咲雫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔道士とチップ

### 【Nコード】

N0299N

### 【作者名】

槍咲雫

### 【あらすじ】

昔、魔獣どもがこの地球に降り立った。その魔獣どもは、いまだ現在に至っても、存在している。

その魔獣を倒すべく、地球にいる主人公の友達。

その友達に、協力してほしいと主人公は頼まれ、チップを　！？

これは、そんな主人公と友達たちのお話。

## 第一章 日常の崩壊

今から300年ほど前

地球に、魔法使いが降り立った。

彼らは人間を攻撃するわけではなく、友達になりたいと言ってきた。人間は、それを拒んだ。

魔法使いなど初めて会ったし、そんな非現実的なものと仲良くなれるとは考えなかったからだ。

魔法使い 魔道士たちは悲しんだ。そして、国へ帰ることにした。そんな時、ある騒動を聞く。

自分達のいた世界には、数々の魔獣が住んでいた。

その魔獣共が、自分達と共に地球に降り立ち、地球を荒しているというのだ。

魔道士達は、途方にくれた。

自分達の行いの所為で、人間が被害にあっている。

それは、許されないことだ。

彼らは、その魔獣共を排除するために、この地球に留まった。

これは、その彼らの子孫達のお話。

「おはよう、玲！」

「おはよう、実加」

ある都市のある中学校で、2人の少女が笑いあいながら、朝の挨拶をした。

彼女達の名前は、神華名玲と菅野実加。中学2年生である。

今日もいつもどおりに学校に通い、いつもどおりに授業を受け、いつも通り帰宅する。

そんな日を描いている、ただただ純粋な中学生。

だが、その日常は、今日で終わりを迎えるなど、誰が予想しただろうか・・・？

ただいま、2時間目の授業、体育。

今日の体育の女子は、外でサッカーをやっている。

真夏の太陽が、彼女達を意地悪そうに照らしていた。

「あ、あつい・・・こんななかの体育なんて、やってらんないよ」  
そう呟くのは、玲と実加の友達、瑞野亜里沙。

「うん、確かに、今日は暑いね」

そう、小さな声で、少し控えめに返事を返したのは、亜里沙の横に立っている、弱々しそうな女の子、東堂彩女。

4人は少し日陰が出来ている木の下で、ボールを蹴りながら、しゃべっている状態だ。

周りでは、他の女子生徒20名程度が、ひなたでボールを蹴りあっていた。

そんな、学生の日常。これが、普通なのだ。

そして、この日常は

「な、何あれ!？」

「ちょ、や!きゃあああ!!!」

耳をつんざくような悲鳴と、

くおおおお

ズシン、ズシン

足音によって、終わりを告げた。

「な、何・・・あれ・・・」

最初に口をあけたのは、亜里沙だった。

4人が見ているのは、怪獣、という単語がぴったりと当てはまるような物体だった。

それは、大きな口と牙に、大きな体を持ち、でかい足で歩き、地面を揺らしていた。

非科学的な物体。何もかも常識がきかないような、授業でも習わない物体。

それが、今口をあけ、

炎を、吐き出した。

周り一面に、首を振りながら炎を撒き散らしていく。

逃げ惑う生徒たちの一部に、その火の粉がふりかかりはじめた。

体操服が、燃える生徒もいて、グラウンドには、混乱が広がっていた。

そして、ついにあの物体の首が、玲たち4人に向けられた。

大きく開いた口から、赤い赤い炎が、吐き出された。

ぼおっという音と共に、暑さを感じて

玲は、その瞬間に、死んだと確信した。

>物体から吐き出された熱は、少々離れていても、そう確信されるほど熱かったのだ。

ああ、最後にお父さんやお母さん、おばあちゃんやおじいちゃん、それに妹やお姉ちゃんに、会いたかったなあ・・・。

そう、走馬灯のようなものが流れ始め、後悔の念まで押し寄せてきたその時

玲は、あることゝ気がついた。  
あまりの恐怖に目をつぶってしまい、周りは見えないのだが、わかることが一つ。

熱く、ない

そう。先ほど、>物体<から吐き出された炎は、今頃なら玲たち4人に到達し、包み込み、燃やし尽くしているはずなのだ。

それなのに、先ほど感じた熱さは微塵も感じられず、それに、考えごとをしていても大丈夫なくらい、時間に余裕がある。

おかしい。これは、確実におかしい。

そう思った玲は、恐る恐る目を開けてみる。

すると、目の前には、>物体<の吐き出した炎を受け止める、彩女がいた。

- 続く -

## 第一章 日常の崩壊（後書き）

読んでいただき、ありがとうございました

続きを後悔する予定ですので、よろしければ読んでいただければ幸いです

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0299n/>

---

魔道士とチップ

2010年10月10日20時09分発行